

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

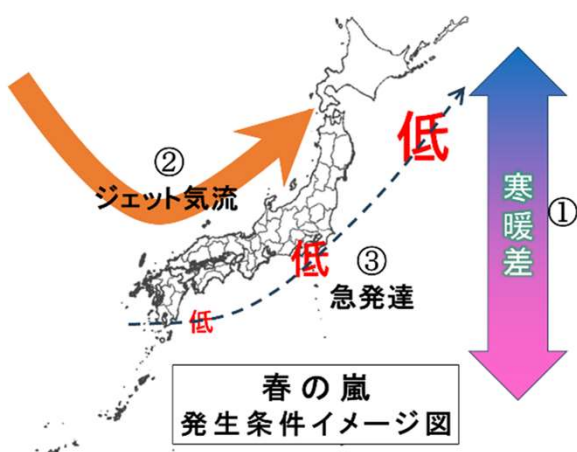
春の嵐 なぜ発生しやすい？

冬から夏に“春”、夏から冬に“秋”があり、春と秋は天気は逆のように変化しているように見えます。ことがあります。“春の嵐”という言葉はよく耳にしますが、“秋の嵐”という言葉はあまり聞きません。それはなぜでしょうか？

3月にもなると寒さが和らぎ、桜の開花や穏やかな気候を期待する方も多いでしょう。しかし、“春の嵐”という言葉があるように、3月から4月にかけては意外と天気が荒れる時期でもあります。

春に嵐が多い理由として、次のような条件が重なることが挙げられます。

- ① 南北の寒暖差が大きい
- ② ジェット気流が活発
- ③ 低気圧が急発達しやすい



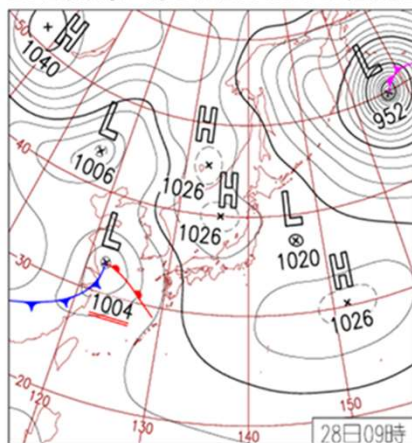
冬の間、日本付近にはシベリア気団（大陸の高気圧）と呼ばれる冷たい空気（寒気）が広がっています。そこに、小笠原気団（太平洋高気圧）からの暖かい空気が北上し、ぶつかることで低気圧が急発達し、激しい嵐が発生します。

一方、秋は春ほど南北の寒暖差が小さく、低気圧が急発達する条件がそろいにくいいため、季節の変化が比較的穏やかです。秋に発生する嵐の代表格は台風ですが、台風は海面からの水蒸気をエネルギーにして、熱帯低気圧から台風に発達していくものであり、春の嵐とは性質が異なります。



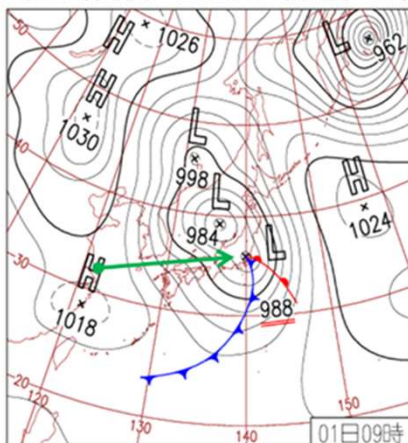
日本列島大荒れの“春の嵐” 2018年2月28日～3月2日

28日黄海にあった1004hPaの低気圧は、24時間後に988hPaに発達、48時間後には962hPaへと猛烈に発達した。



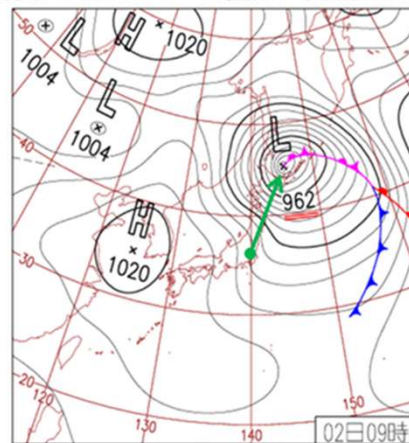
28日(水)四国と東海で春一番

黄海の低気圧が急速に発達・東進し西から雨で雷も。九州北部は大荒れ、夜は東日本も雨。北陸～北日本は晴れで一部で雪。最深積雪 宮城県駒ノ湯165cmは史上1位。



1日(木)列島、大荒れ

急速に発達する低気圧により全国的に大荒れ。山形県飛島の最大風速30.2m/sは3月の記録更新。関東中心に最高気温20℃以上。近畿、関東で春一番。



2日(金)北海道で暴風雪続く

低気圧が発達を続け、北海道えりも岬の最大瞬間風速44.3m/sは3月の記録更新。北日本各地で30m/s超の最大瞬間風速。北海道大滝では日降雪量48cm。北日本以外は概ね晴れ。

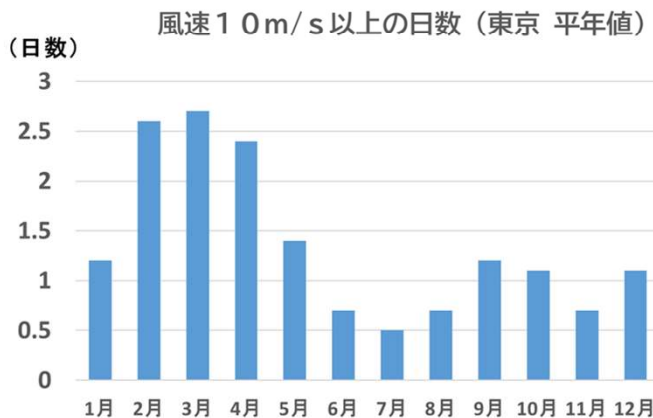
緑矢印は低気圧の動きを示す

出典：気象庁ホームページ「日々の天気図」

春の嵐には、日本海や本州南岸を進む低気圧が大きく関係しています。

- ・日本海を東に進む低気圧は、北側に寒気、南側に暖気を伴いながら急発達することがあり、これはマスコミなどで“爆弾低気圧”と呼ばれることがあります。
- ・本州の南岸を進む低気圧は、南から大量の湿った空気を運び込み、雨や大雨をもたらすことがあります。

さらに、上空の環境も春の嵐を引き起こしやすくなっています。日本付近の上空 5～10km を西から東に強く吹く偏西風（ジェット気流）は、春にはまだ風速が強く、南北に大きく蛇行することもあります。特に偏西風の軸が南に落ち込む部分の東側では、空気を吸い上げる効果があり、低気圧がより発生・発達しやすくなります。



このような背景もあり、仙台、東京、名古屋、広島など本州の多くのところで、10メートル以上の風が吹いた日数の平年値は3月が最大となっています。

地球温暖化の影響で冬の寒さが緩む一方、春先に寒気が急激に流れ込むことが増えていると言われています。そのため、春の嵐がより激しくなる可能性があります。

春の嵐を避けることは難しいですが、“メイ（5月）ストーム”の心配がなくなるまで天気予報を活用し、飛ばされやすい物を片付けるなど

の対策をとることで、被害を抑えられます。気象情報を上手に活用し、より快適な春をお過ごしください。

問い合わせ先 危機管理課計画係 電話 3993

令和7年3月10日
危機管理課発行